

今後の阿波病院における病床や運営のあり方について

(1) 基本情報

| | |
|-------|--|
| 医療機関名 | 阿波病院 |
| 開設主体 | 徳島県厚生農業協同組合連合会 |
| 所在地 | 阿波市市場町市場字岸ノ下190番地1 |
| 許可病床 | 133床（一般病床73床 回復期病床60床） |
| 稼働病床 | 【令和5年度】96床（一般病床36床 回復期病床60床） 【令和6年度】60床（回復期病床60床） |
| 診療科目 | 内科・小児科・外科・整形外科・耳鼻咽喉科・泌尿器科・放射線科 |
| 指定・認定 | 救急告示病院・災害医療支援病院・臨床研修指定病院・開放型病院 |

(2) 2025年（令和7年）以降の医療機関としての対応について

当院は、令和元年9月に厚生労働省より、地域医療構想に基づいた再検証の要請医療機関として公表されました。診療実績が少なく、同一圏域内に類似かつ近接した医療機関があり、再編統合について特に議論が必要な病院と位置づけられました。

令和5年度第3回東部地域医療構想調整会議において、急性期病床36床を休床とし、地域の急性期医療については吉野川医療センターと連携・強化を図り医療機能の分化を図っていくことで、合意をいただきました。

令和6年4月からは、稼働病床数60床の地域包括ケア病棟で運営しております。阿波市をはじめとする東部Ⅱ保健医療圏域の地域医療に取り組んでおりますが、病院を取り巻く環境は大きく変化しており、さらに病床数の縮小が必要な状況となっております。

地域の人口減少や高齢化等により、外来診療・入院患者数や治療内容にも変化が見られ、今後さらに加速するものと考えられます。

医師・看護師等の医療スタッフは県全体で不足しておりますが、阿波病院においては確保がさらに厳しく、医師の高齢化も進んでおります。

このようなことから、令和7年4月からは、稼働病床を40床に縮小した地域包括ケア1病棟を運営して参ります。

診療科については、週1回木曜日の午前に行っておりました、「耳鼻咽喉科」について、医師不足により中止することといたします。

「腎センター」については、週3回2クールの透析を縮小することとし、午前開始の1クールに集約化を図り、今後は月曜日から土曜日の週6回すべてを1クール体制に変更して参ります。

これからも、阿波病院を取り巻く医療環境は厳しさを増すと考えられますので、病床の適正化のために、休止病床につきましては廃止を進めて参ります。

また、厳しい経営状況に加え、未耐震の病棟や老朽化した設備への対応という課題もあるため、今後も段階的に病院機能を縮小し、適切な運営に取り組んで参ります。